



編集・発行
 日蓮宗 能勢妙見山
 広報部
 〒563-0132
 大阪府豊能郡能勢町野間中
 電話 072-739-0329
 FAX 072-739-2883

5月15日 妙見大菩薩年大祭

毎月15日は妙見様のご縁日です

特別な功德をいただける日のご縁日ですが

能勢妙見山では5月のご縁日を年大祭として特別法要を厳修します

【5月の主な行事】

★写経会 14日(日) 11時

☆妙見大菩薩年大祭 15日(月) 11時

修法加持特別祈禱を厳修（事前受付中です）

法話 豊中根本寺 服部憲厚上人

引き続き月例祈願法要 13時 於開運殿

妙見さまに願いを書いた兜矢を献納します

★鷗様月例祭 22日(月) 15時

火伏せ守りの黒札を授与します

●5月は清掃の日を休止します

【6月の行事予定】

★写経会 11日(日) 11時

★清掃の日 15日(木) 11時

★月例祈願法要 15日(木) 13時

★鷗様月例祭 22日(木) 15時

●星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

◎ご祈禱・御回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎写経はご自宅でもできます お問い合わせ下さい

○出会いの鐘巡り・登山カード押印は再開しました

○奉賛会会員の送迎車の運行につきましては

事務所にお問い合わせ下さい

◆ケーブル&リフトは水・木は定休（但し例外あり）

（詳細は能勢電鉄へ TEL0727927716）

藤の花

詠裡庵

藤の花が例年より早く咲き始めた、ニュースでも話題になっていました。

公園や小学校によくあったのが藤棚です。その下で砂遊びをしたのが楽しい思い出になっていきます。藤が周りを囲むように優しく包んでくれていました。

藤棚ではなく、まるで盆栽のような、高さを一メートルくらいに抑えた藤もありますね。よく見ると根元は太く支え木もなく、幹をしなせられた姿は力強さを感じさせるように立っています。強い日当たりを好んでどこまでも蔓を伸ばそうとするはずの藤ですが、別の植物かのように感じられるのは、成長の過程における縁によるものなのでしょう。

藤は花を咲かせるとき、花だけが垂れ下がるように

咲き、正味の花だけをじっくり見ることが出来る華やかな花です。それだけに人の目にとまることも多かったです。たためか古くは『古事記』や『風土記』にも出てくるそうです。『万葉集』にも庭の藤を愛でる言葉が出ています。昔からそれだけ人々に親しまれてきた身近な花だったということなのでしょう。

春の山では桜が終わる頃今度は藤の花が私たちの目を楽ませてくれます。

能勢の山にも藤が生育しているのが見られます。これは藤棚などの低いものではなく、樫や杉などの高木に巻き付いて高く伸びています。強い日光を求めて一杯に首を伸ばすようにお日さまの方に伸びていき、樫や杉の葉を押し上げるように天高く咲き誇り、私たちの目にはとても美しく見えます。ところがこの藤に巻き付かれた木は幹が大きくなれず、やがて枯れてしまふので山の手入れのため、藤は根元で切られるそうです。美しいだけではなくともたくましいのですね。

私が生まれたとき、孫娘の成長を願って祖父が「藤娘」の人形を買ってきたそうです。どんな願いが込められていたのでしょうか。藤の花のように美しく育て欲しい？ 藤の蔓のように逞しく生きて欲しい？ それとも……？

私と私たちはなにが違うのか。それは氷と水と水蒸気の違いのようなものかもしれない。「H2O」であることに変わりはない。違うのは温度。心の温かさを高めれば仏に近づけるのかもしれない。

仏と私

私と私たちはなにが違うのか。それは氷と水と水蒸気の違いのようなものかもしれない。「H2O」であることに変わりはない。違うのは温度。心の温かさを高めれば仏に近づけるのかもしれない。

《法華經に学ぶ現代》

～純智庵～

諸の苦縛を

俺が俺の 我に縛られて 苦しみ歩んだ我が人生

離るるを

ふと立ち止まり 考えた 楽になる道ないものか

解脱を得と

あるぞその道 目の前に まずは我を捨て

名づく

世の中を無心になって 観るがいい

『譬喩品第三』

解脱のカギはそこに在る

仏教まめ辞典

一 大事 (いちだいじ)

大きな事件を指す言葉で、先日の総理大臣が襲われた事件はまさに一大事であった。他に重大な事柄を指す。

この「一大事」という言葉は、仏教語としても重要な意味を持っている。もとを探ると、法華經の方便品に説かれる「一大事因縁」にたどり着く。ここで釈尊は弟子舍利弗の懇請に応じて法を説きはじめる。そして釈尊は「私の目的は、凡夫に仏の智慧を教え、示し、悟らせ、仏の世界に導き入れることである。そのために法を説き、そのためにこの世に出現したのだ。この一大事の因縁を達成するために法を説くのである」と語られる。つまり、一大事とは釈尊がこの世に出現された目的、即ち私たち衆生を救って下さるという、ただそのひとつだけの目的のために為される行為・行動すべてを指しているのである。